

広報つばめ

Tsubame



市内の対象店舗で利用できる
「燕応援フェニックスクーポン」
を13ページに掲載！

特集 デザインのチカラで未来をつくる

2021

5

No.361

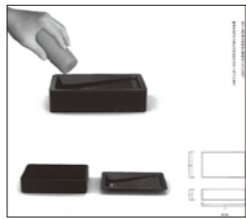
デザインのチカラで未来をつくる

先日受賞が発表された「ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール2021」。今回初めて、「若monoデザインコンペティション燕2021」で評価されたデザインを製品化したものが準グランプリを受賞しました。今号では、受賞までの道のりや、グランプリを受賞した新型コロナウイルスワクチン運搬庫などについてご紹介いたします。

出会い、そして失敗

平成28年度に初めて開催された「若monoアイデアコンペティション燕2017」。デザイナーの岸さんは、硯で墨をする動きに着想を得たおろし器「野菜のすずり」で、準大賞に選ばれました。

「野菜のすずり」をカタチにするにあたり、市内で金属製刃物を製造している(株)ツボ



▲「野菜のすずり」

エの代表取締役社長の笠原伸司さんの協力で、製品化にチャレンジすることになりました。二人で約1年かけてデザインをブラッシュアップし、試作品を完成させます。しかし、でき上がった試作品を販売店に持ち込んでも反応はいまひとつで、結局、量産して売り出すことはできませんでした。

リベンジ

商品化を断念した後、笠原さんのもとに岸さんから電話が入ります。「第3回のデザインコンペで大賞をとりました！リベンジしましょう！」笠原さんは、前回の雪辱を

晴らすべく、再び岸さんの作品の製品化に協力することを決めました。今度こそ絶対に売れるものを作りたい。二人の奮闘が始まります。

製作

岸さんが平成30年度に大賞をとった作品の名は「Leaf」。薬味やチーズなどを、まるで手のひらで直接すりおろしているかのような感覚で気軽に楽しむことができることをコンセプトにした、手のひらサイズの「野菜のすずり」では、ターゲットを掴めていなかった反省を踏まえ、今回は「日ごろおろし金を使わない若い人

現在、オランダで生活していらっしやるそうですね。

世界的に有名なダッチデザイナーを勉強しています。今はロックダウン中で自由に動かせませんが、将来的にはフリーランスビザの獲得を目指しています。

嬉しく思っています。若monoデザインコンペで得たことは？ ツボエさんとマッチングできたこと、また、コンペを通じ、他の受賞者と繋がれたことです。今度、他の受賞者と一緒に、商品化した3作品をイタリアのミラノデザインウィークで展示する予定です。

他のコンペと違いはありますか？

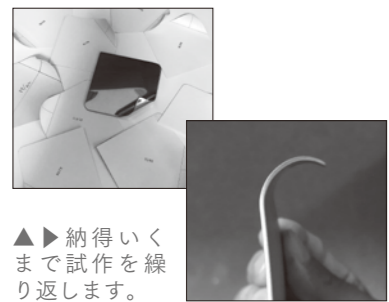
「手のひらで野菜をおろす」を核となるコンセプトとしていた中で、路上の掲示板に貼られたポスターが風に吹かれて角がめくれている様子を目にしました。紙の角をめくるといふ動作は馴染み深いですし、金属プレートに着色した見た目はポストイットのようにポップになるのではと思っ

たのが始まりです。「Leaf」は「野菜のすずり」の制作過程で生まれたアイデアを基にして制作しました。あのときの試行錯誤が別の形で結果に結び付き、



きしげんすけ 岸 玄昌さん ◎フリーランスデザイナー

初めて「Leaf」のデザインを見たとき、どう思いましたか？ なるほど、そうきたかと。自分では絶対に思いつけないデザインでした。コンペという場で結果を出し、商品化に再挑戦したいという気概にも胸を打たれました。コロナ禍が影響を与えたことはありましたか？ やりステイホームですね。普段料理をしない人たちも、巣籠もりで良い調理器具を求めたことが追い風になりました。チューブの調味料も便利ですが、おろしたてはやっぱり香りや風味が違います。日ごろ、おろし金を使わない層をターゲットにしたのが当たりましたね。コロナ禍の前から始動していたのですが、結果的に多くの人たちへ届いてよかったです。



▲▶納得いくまで試作を繰り返します。



かさらは しんじ 笠原 伸司さん ◎株式会社 ツボエ 代表取締役社長

そういえば、高校生の娘に先日これが欲しいと言われました。可愛いので友達にあげるのだそうです。いままでおろし金には見向きもしなかったのに(笑) でも、こんな身近でマーケティングの成功を感じられたのはすごく嬉しかったですね。若monoデザインコンペに参加した感想は？ 若者の視点を取り入れることで、可能性はこんなに広がるのだと気づきました。参加してよかったです。

笠原さんと岸さんが約1年かけて作った「Leaf」改め「Irogami」ひとひらのおろし金」は、若者のユニークな視点と燕に息づく高い技術による、これまでになかったおろし金です。笠原さんが「ひとひらのおろし金」を今年度の「ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール」に出



▲「Leaf」

若 mono デザインコンペティション燕って？

市内企業と若手デザイナーのマッチングを図り、付加価値の高い新製品の開発を行うことを目的としたコンペティション。若手デザイナーとの共同開発に取り組む意欲のある企業ごとに設定したテーマに沿ったデザインを募集し、大賞を決定。テーマを出していた企業と試作開発し、製品化を目指します。

ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクールって？

金属洋食器、金属ハウスウェアをはじめとする燕産地が生み出すさまざまな製品について、「革新性」「審美性」「機能性」「市場性」「社会・環境性」の専門的視点から評価・発信することで、産地としての競争力を高め、持続的発展を目指します。今回で44回を数え、グランプリには経済産業大臣賞が授与される名誉あるコンクールです。

今回のポイントは？

若 mono デザインコンペの受賞作品が実際に製品化し、デザインコンクールで表彰されたのは今回が初めて。若者らしいデザインと燕の技術の融合で、キッチンを明るくする製品ができました。



(有)徳吉工業
代表取締役
徳吉 淳さん

準グランプリをいただきありがとうございます。
Tsubame Blade Stream は、「燕市フィギュアスケートブレード開発研究会」で開発しました。多くの皆様からご協力をいただき、参加企業それぞれが得意分野の知識と技術を発揮して開発したフィギュアスケート用ブレードです。
剛性を保ちながら軽量化した点、靴への取り付けやすさ、各工程が燕の企業で分担して作られているところなどを評価していただけたと思います。
今後も燕の加工技術でより良いブレードをつくり、フィギュアスケート界の発展に貢献していきたいと思っています。



ツインバード工業(株)
代表取締役社長
野水 重明さん

このたびは大変光栄な賞をいただき誠にありがとうございます。
FPSC (フリー・ピストン・スターリング・クーラー) は、燕三条地域の金属加工技術を集結した当社独自の画期的な冷却技術です。今回、この技術を搭載したワクチン運搬庫を、燕市でのワクチン運搬にご使用いただけます。
安全なワクチン輸送・保管により、燕市民の皆様安心してワクチンを接種していただけるよう尽力いたします。そして、燕三条地域の技術とともに新型コロナウイルス感染防止という地球規模の社会課題解決に貢献してまいります。

ジャパン・ツバメ・ インダストリアルデザインコンクール 2021

グランプリは「ディープフリーザー 25LWL」 ワクチン輸送で世界を救う！

感染症対策製品の出品も多かった今年度の「ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール 2021」。
この度、過去最多応募数 93 点の製品の中から、ツインバード工業(株)の「ディープフリーザー 25LWL」が、グランプリ・経済産業大臣賞を受賞しました。
今回受賞したディープフリーザーは、FPSC (フリー・ピストン・スターリング・クーラー) を搭載したワクチン運搬庫で、武田/モデルナ社製ワクチンの輸送・保管に採用された特別仕様。庫内は 10℃～～ 40℃まで冷却が可能で、極めて精密な温度制御ができます。

●フリー・ピストン・スターリング・クーラーって？

エンジンの中にある 2 つのピストンが 1 秒間に 80 回動き、ヘリウムガスを膨張させると同時に、温度も下がっていくという仕組みで、振動にも強く、軽いため、国際宇宙ステーション内の日本の実験棟「きぼう」の実験室でも採用されているツインバード工業(株)の独自技術です。



準グランプリは「燕ブレード」 燕の金属加工技術を結集

中小企業庁長官賞に選ばれたのは、メイドイン燕のフィギュアスケートブレード「Tsubame Blade Stream」。市内企業で研究会を立ち上げ、開発に約 3 年を費やしました。
開発秘話について、詳しくは広報つばめ令和 2 年 3 月 1 日号をご覧ください。



【他受賞作品】

- 準グランプリ・経済産業省製造産業局長賞
irogami - piece of grater ひとひらのおろし金 (株)ツボエ
- 優秀賞・関東経済産業局長賞
鍛造フライパン 刀 (株)イケダ
- 優秀賞・新潟県知事賞
ツバメエアークリーンテント (株)吉田工業
- 他審査委員特別賞 6 点



品したところ、過去最多応募数 93 点の製品の中から、準グランプリ・経済産業省製造産業局長賞に選ばれました。
審査委員からは、その意匠性が賞讃されたほか、豊富な色展開や機能性、SDGs への配慮など、おろし金としての機能を損なうことなく料理や食事を楽しくさせる製品だとして高く評価されました。
さらに、「ひとひらのおろし金」は、「ニイガタIDS デザインコンペティション」の準大賞、シカゴの「グッドデザイン賞」も受賞。国内だけでなく、海外からも注文や問い合わせが殺到しています。
笠原さんは、今回初めて海外のバイヤーとのオンライン商談会に参加。アメリカやポーランド、UAE など、これまで考えてもみなかった国々から絶賛され、以前にはなかった新しい販路の可能性を強く感じていきます。
そして現在、「Irogami」シリーズとして、おろし金以外の調理器具を作る計画も立ち上がっています。すでに岸さんの考えた第 2 弾の製品の原案が笠原さんの手に届いているのだそう。
「野菜のすずり」の製品化が頓挫しても折れなかった笠原さんと岸さんの思いは、最高の形で実を結びました。
未来をつくる
デザインコンクールでは、グランプリ・経済産業大臣賞にツインバード工業(株)の「ディープフリーザー 25LWL」が、準グランプリ・中小企業庁長官賞に(有)徳吉工業の「Tsubame Blade Stream」が選ばれました。
「ディープフリーザー 25LWL」は、新型コロナウイルスの運搬庫にとどまらない更なるニーズの高まりが期待でき、社会にも大きく貢献する製品であること、 「Tsubame Blade Stream」は、従来の課題を独自の仕様で解決した点などが受賞に繋がっています。
多様な技術の集積地・燕は、人々の生活を豊かにする、多種多様な製品を生み出すことができる場所です。燕市は、デザイン性が高く、未来をカタチづくる製品の開発を今後も支援し続けます。